

名古屋文化キンダー ほると ニュース



84

Autumn
2023

発行日 * 2023年11月1日
発行所 * 社会福祉法人 名古屋文化福祉会
児童養護施設 名古屋文化キンダーホルト
キンダーホルトをささえる会 会長 金田 綾子
住 所 * 〒480-1103
愛知県長久手市岩作琵琶ヶ池50-1
TEL * 0561-62-4728
FAX * 0561-62-4736
E-mail * kinder@coast.ocn.ne.jp
HP * <http://kinderhort.jp/>

子どもの回復や修復と“Unsung hero”

園長 岩田 正 人

連日続いた猛暑も一息つき、秋めく季節が近づいてきました。今夏、子どもたちにとってはコロナ禍を経て、ホルトキャンプや卓球大会、行楽やそれぞれの個々のお出掛け、長久手のお祭りなどたくさんの夏のイベントに参加や体験をして過ごしていました。幼児さんから高校生までどの子どもたちもその参加や体験を通じて、心身ともに一回りも二回りも大きく成長する姿が見られたホルトの夏でした。

そうしたなか、子どもたちの場面場面を挙げると、小学生同士で気持ちが高ぶり、相手側の気持ちをよそに言い争いぶつかり合ったと思いきや、数分後には仲良くなり、関係性が修復されていて二人で遊ぶ姿や、暑さや疲れからなのか体調を崩すものの、一晩寝て翌日には元気に回復していた様子があったりと、大人のそれとは比較にならないほど、子どもたちのこころと身体の回復や修復する力を間近で感じ、いつも驚かされることばかりです。それに、子どもたちの被虐待経験の傷つきから癒しや大切にされたと感じられ自尊心を取り戻す「回復を目指した支援」という社会的養護の原理、あるいは様々な経過を辿り、分離された親子関係が相互に肯定的なつながりや主体的に修復されていくことの「親子関係再構築支援」など、特に子どもに関わる施設現場においては、その回復や修復という言葉の重要性から切っても切り離せないワードなんだろうと感じます。

その回復や修復は、大人や誰かが、子どもに対して何かをやらせたり、考えさせたりという態度の「せる・させる」の結果というわけではなく、子ども自らが主体的に回復や修復しようとする育ち、子ども本来の力に他ならないのだろうと感じます。

ただし、その主体的な子どもの育ちの近くやまわりの環境には、多くの大人が存在していることは確かな事実でもあり、家庭においてはそれが父母にあたるだろうし、施設においては担当職員や行事の企画実行されていた支援する多くの方々ということになるのでしょう。

子どもにとって、その存在は“Unsung hero（歌われることなき英雄）”と言え、決して表には出ず、評価されずとも地道で且つ継続的に支援しているいわば縁の下の力持ちの役割があってこそなんだろうと思います。

いま、子ども政策及び少子化対策がフォーカスされ議論されています。年内には、こども大綱の取り纏めが進んでもいます。政府が掲げる「誰一人取り残さない社会を目指す」とされるなか、社会のなかでマイノリティである施設の子どもたちの現状に危機感をもち、従来の痛んで制度疲労していた制度政策はしっかりと修復し、どこまで回復していくのか、子どもにとっての、“Unsung hero”に国はなり得るか、注視していきたい。

行事報告



ホルトキャンプ(全体を通して)



今年度は4年ぶりの分散キャンプでした。準備段階から、食堂に貼り紙をしたり、子どもと職員での話し合いをしたり、各グループがモチベーションを上げて取り組んでいる様子が見られました。1つのグループの人数が少ないからこそ、子どもと職員で密なやり取りができ、子どもへの配慮がたくさんあったキャンプだったと思います。中高生男子キャンプは、事前にサイクリング行事を計画して知多の方までサイクリングに行ったり、中高生女子キャンプは、子どもたちのことを考えたグループ決めをしたり、小学生キャンプは、飯盒を使ってカレー作りをしたり・・・各々が楽しみながら準備をしていたことが印象的でした。キャンプから帰ってきた子どもたちは疲れているながらも、「楽しかった?」と聞くと、「楽しかった!」と答えてくれて、楽しかったエピソードがどんどん出てくる様子を見ると、子どもたちにとって良い夏の思い出になったのかなと思います。(柴田か)

「小学生キャンプ」

今回の小学生キャンプではバラバラの年代での共同生活を3日間頑張って終えることが出来ました。職員が事前に子ども達を何度も集めて子ども達主体で話し合いをしたりと意識付けもしっかりとできてキャンプへと望むことが出来ました。1日目は川遊びを主体としたスケジュールでした。川遊びでは集団でしっかりとルールを守りながら遊ぶという事を重視して臨みました。特大大きなけがもなく泳げないと言っている子は「思ったよりも泳げた。」など成長が見られる部分も見られました。2日目は沢登り、スイカ割り、釣り、花火を行いました。ここで印象に残っているのは沢登りでの景色でした。子ども達が「すげー!!」や大人も「すごい…」と言葉を失う職員もいたかと思えます。それほど鮮明に残る景色でした。スイカ割りでは「こっちだよ!」と本当のことを言う子や「違うこっちだよ!」と嘘のことを言う子もいたり性格が出る一面も見られました。3日目はアスレチックに行きました。アスレチックは達成感が大きく出る体験だったなと感じました。個々での体験は皆にとってとてもいい経験だったかなと思います。今回のキャンプを通して1年目で自分は何が出来るだろうと考えて動こうとしていたが、その考えが視野が狭かったものだと気づかされました。子ども達の目線に合わせてこのキャンプで活かした経験を業務に繋げたいなと感じました。(宮本)



「のんびりキャンプ」

大勢での活動が得意ではなく、人数が少ない環境で自分を発揮できる子ども達と伊豆半島へ行きました。彼らに合った融通の効く行程で、伊豆特有の雄大な自然と、外の世界に関心が持てる景色を回るコースを考えました。

ある子は「生活リズムを整える!」と1ヶ月前から頑張ってくれました。食べ物を漁りに来た鹿に怯えながら、流れ星を探して空を見上げ「また星を観に行きたいな、怖いから泊まりは嫌だけど」と話しました。帰り際「お守りとして持っておいで」と入れていたゲーム機を見て「一回もゲームしなかったわ!」と驚いていました。ゲームより夢中になれるキャンプに出来たと思います。卒園を迎える男の子。いつも辛口な彼ですが、鹿に怯える他児に「どうした?何が怖いんや?」と優しく声を掛け夜道と一緒に歩いてくれていました。長くキンダーホルトにいた彼、社会に出ていく厳しさはあれど、自分の力で雄大な自然や綺麗な景色を探しに行く楽しみを知ってくれたらいいなと思います。(村井)



「中高生女子キャンプ」

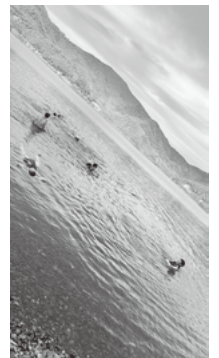
私自身女子中高生チーム、初めて長い時間を女の子の気難しい年代の子と過ごすことや、キャンプの内容を楽しんでもらえるかなど、気にすることが多く身構えて当日を迎えましたが、子どもたち全員参加することができ、イレギュラーはありつつも楽しむことが出来ました。2日目の活動では、それぞれ、カヤック、マリンスポーツ、レインボーラインと夕食の買い出しの三チームに分かれました。私はレインボーラインと買い出しで、特に印象に残っているのが、高3の女兒と日本海さかな街で買い出しをした際に、市場の様子を見て魚や従業員さんの声のかけ方など多くの事に興味を持ち、感動している姿です。一緒に体験することが出来て良かったです。その日の夜に行ったBBQでは買った海鮮を高3の女兒がずっと楽しみにしており、何回もいつ食べるのか聞いてきたり、他の子もバイトの経験を生かしてイカを捌いてくれたりしました。私自身女の子達と関わる機会が今まで少なく、距離感が難しかったです。車の中やバンガローで普段話せないことも話すことができ、たくさん関わりを持つことが出来たので良かったです。全体キャンプより深く子どもと関わる事ができ、それぞれのニーズにも合わせる事が出来たように感じます。小規模キャンプを経験することが出来て良かったです。(青木)



「中高生男子キャンプ」

中高生男子サイクリングキャンプでは、2泊3日で琵琶湖を1周してきました。琵琶湖を1周することは昔では「琵琶1!」というそうです。本番を迎える前に、長久手〜知多半島先端、羽豆岬(約70km)と練習を兼ねて走行し、本番に琵琶1を目標に初日50km、2日目80km、3日目30kmに分けてチャレンジしました。事前練習のスタート前には「大丈夫でしょ!」余裕だろと軽く考えていた子どもたちでしたが、羽豆岬まで猛暑の中、70km走り切るころには真剣に取り組まなければいけない、と緊張した表情でした。

本番当日、彦根までの車内では普段通りの和気あいあいとした雰囲気でしたが、スタートすると真剣な表情で黙々と自転車を漕ぐ子どもたち。途中、怪我やキャンプ設営でトラブルはありましたが意見や思いをぶつけあい、160kmと長い道のりを完走することが出来ました。子どもたちはそれぞれの能力に合った目標を達成することができたと思います。(牧野)



「Dグループキャンプ」

台風6号の接近が懸念された為、残念ながらキャンプ場での泊りなしで2日間のお出掛けとなりました。1日目はぎふ清流里山公園にて、子どもとポニーに乗ったり、ぱちぱち氷のかき氷を食べて楽しんだり、スライダーなどの水遊びをしたり、日頃出来ないお出掛けを楽しめたなと感じます。「もっと遊びたかった」「また来たい」と子どもからも声を聞くことができ、子どもも満足するお出掛けになったのではないかと思います。2日目は、お魚掴みに挑戦しました。魚を手掴みで取ることになかなか行けない子も脱兎の如く、魚にとびかかるといって、子どもたちの新鮮な姿を見ることが出来ました。幼児グループのみでの初めてのキャンプでしたが、とても良い思い出になったのではないかと思います。(水野き)

地域小規模児童養護施設「フォワイエ」

20年目へ向けて

児童指導員 河野 遼

2000年に地域小規模児童養護施設が制度化され23年が経った今、全国では約500カ所（厚生労働省子ども家庭局調べ令和2年現在）の地域小規模児童養護施設が開設されています。数年前から社会的養護は国の施策として「施設養護」から「家庭養護」へと変化してきました。キンダーホルトも「フォワイエ」を2004年尾張旭市に、また瀬戸市に「ログ・カメラアの丘」も2019年に開設し、本体施設の定員を減員しながら小規模での養育に少しずつ移行しています。このような社会の変化の中でキンダーホルトは「家庭的養護」の在り方も常に模索しております。

本稿では「フォワイエの歩み」を振り返ることでこれからのキンダーホルトにおける地域小規模児童養護施設の在り方、そして「フォワイエの20年目」に繋がっていければと思っております。

～フォワイエの歩み～

先輩職員のお言葉を借り、開設当時を振り返りたいと思います。

『地域小規模に引っ越す子ども6人が窮屈な思いをしない大きさの住宅を探しました。情報誌とインターネットを駆使しての物件探しの毎日を思い出します。物件を見つけたら、すぐに不動産屋へ電話します。8割は断られますが残り2割は内覧を受け入れてくれます。でも不動産屋から家主に問い合わせると「貸せない」と返事が返ってきます。理由は「地域小規模児童養護施設ってよくわからない」つまり「得体が知れない」とのことです。』

断られ続ける日々というのは本当に大変だったようでした。物件探しから半年が経ち、ようやく地域小規模の趣旨を理解していただける家主さんに出会い、賃貸契約と内装改修を承諾してもらいました。開設に至るまで本当に大変な道のりがあったことを知り、家主さん、先輩職員のありがたさを感じます。

あれから19年、総勢20名の色々な子ども達がフォワイエで生活し、ご近所さんや地域の方にもたくさん助けてもらい、巣立っていきました。「フォワイエ」という名前はフランス語で団らんを意味します。一緒に生活する仲間や職員、家族、また地域の温かさを少しでも感じて、社会へ巣立って欲しいと願っています。

現在フォワイエは高校生3人中学生2人幼児1人で生活しています。これまでとは違い、長期間施設で生活する子どもは減り、中高生の入所が増加しています。不登校、引きこもり、スマホ、SNSなどと子どもたちが抱える課題も変化してきています。開設当時は先進的だった二人部屋も今では一人一部屋が当たり前になり、また運営面では自然災害の対策なども考えないといけない時代へと変わりつつあります。その中で我々は、今を生きる子ども達と社会のニーズに応えられるよう歩みを止めずに『生まれてきてよかった』と思えるように支援していきたいと考えております。

最後になりますが、この度ご縁があり新しい物件へと引っ越す話が進んでおります。この取り組みにあたりプロジェクトチームを立ち上げ、これまでの地域との繋がりを大切にしたい、そして様々な課題を抱えた子ども達が暮らす環境が再び大きく変化しないということを十分に配慮して取り組んでいます。このプロジェクトを担わせて頂いたことに感謝し、これからのフォワイエ、キンダーホルトのために全力を尽くしたい所存です。



外観



ダイニング



キッチン



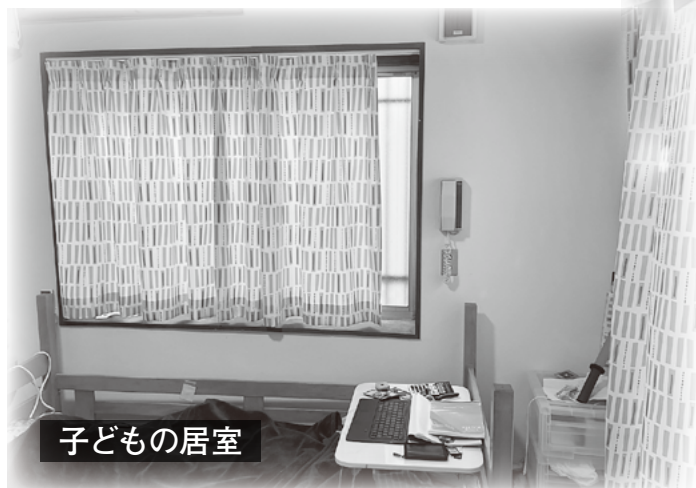
リビング



浴室



洗面所



子どもの居室



宿直室

行事案内

「ホルトまつり」開催について

【目的】 日頃お世話になっている方々と楽しい時間を過ごす中でキンダーホルトを知ってもらい、また感謝の気持ちを伝える場となっておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により3年間は開催を見送ってまいりましたが、その様な状況の中で昨年度はホルトフェスという形で開催させて頂きましたが今年度より例年のホルトまつりへと少しずつ開催の規模を戻していきたいと考えております。
今年度のホルトまつりについては下記日程で開催させて頂きます。

【日時】 令和5年11月4日 土曜日
11:30～14:30（受付11:00～）

【場所】 キンダーホルト建物内と園庭

【問合せ】 ホルトまつり企画委員 河野 柴田か
Tel：0561-62-4728 Mail：kinder@coast.ocn.ne.jp
※天候等による開催の可否についてはHP、facebook、twitter、instagramをご参照ください。



職員コラム

「これまでを振り返って」

村井 駿介

大学1年生の10月、それまで自分のことばかりで必死になって生きていましたが、人のために何かをしたい、と思いボランティアを探して児童養護施設に出会いました。学生時代、子ども達のことを真剣に考える多くの施設職員さんに出会い、ある施設で「この人みたいになりたい」と思える職員さんに出会い、児童養護施設へ就職することに決めました。

名古屋での繋がりもあり、キンダーホルトの採用試験を受けました。最初に来た時、グラウンド側の窓にネットが張ってあるのを見ました。「ガラスが割れるから、ボール遊びはしないでね」と言うのではなく、思いっきり子ども達が遊べるためにはどうしたらいいか、考えて取り組んでいる姿勢に惹かれました。

2年間は本園の学童グループ、今は地域小規模児童養護施設のフォワイエで勤めています。環境も立場も代わり、やりがいや楽しいことが何か、端的に言葉にすることが出来なくなってきています。時間的な制約があり限られた環境下でしか関わることが出来なかったボランティア時代に比べ、今は子ども達と出掛けたり、買い物へ行ったり、ただリビングで過ごしたりしています。当たり前のように子ども達と過ごし、隣にすることが出来ていることが、今は一番の原動力なのだと思います。

「初心にかえて」

太田 みなみ

キンダーホルトで実習を行っていなかったら、私は児童養護施設に就職することなく幼稚園に就職していたと思います。キンダーホルトの雰囲気や職員と子どもの距離感、毎日当たり前で過ごしている何気ない、ご飯を一緒に食べ、お風呂に入る、お出かけする、そんな日常を一緒に過ごせる事。先生ではないもっと近い距離で親身に子どもと関われる環境にとっても魅力を感じ、私もここで働きたい!と強い思いのもと就職し、あっという間に5年が過ぎました。3年間幼児部で働き、1年目の時年少だった子たちと一緒に学童部に異動し、もう1年半が経ちます。去年1年は思い出したくないくらい大変でした(笑)出来なかったこと、もっとあの時こうしとけばよかった…まだまだだな…と実感しました。働いていると、子どもを通して良くも悪くも感情は揺さぶられますが、子どもの成長を通して、自身の成長を実感できるので、これからもホルトの子どもたちと一緒にいろんな事を経験して成長し続けたいと思っています。そして、私が“ホルトで働きたい”と感じたことを次の世代に受け継いでいければと思います。

Instagram のご紹介

キンダーホルトではInstagramも開設しております。

今後もほるとニュース、ホームページ、Facebook、Twitter、Instagram等を通じ子どもたちや施設の様子を身近に感じて頂けるよう努めてまいります。



ご寄付・ご寄贈・ご招待ありがとうございます

いつも多くの方より「キンダーホルトをささえる会」へご支援賜り、ありがとうございます。

令和5年4月から令和5年7月までに、「ささえる会」へのご入金・品物のご寄贈・イベントなどへご招待くださいました方々をご紹介しますとともに、この場を借りてお礼申し上げます。(順不同・敬称略)

「ささえる会」 へのご入金

山内渉	瀬戸市陶原地区社協	沼賀弘美	田 眞花
河内伸子	鈴木宏昌	古池俊典	加藤佳代
原田邦彦	滝浪常雄	宮澤和俊	鈴木哲
河合雅代	加納明	五輪秀朗	NPO法人楽歩
鈴木	吉川和一	渡邊美香子	神山明彦
山吹淑子	池田和永	廣瀬規代志	新実由美子
住奥雅美	貝川直子	相羽美智子	安達鈴代
加藤みち子	西岡道治	(株)ユウアイプランニング	定森恭司
佐藤千咲芸	川村賀子	図子緑	匿名 4名

寄贈・招待

(株)名古屋食糧(中区)／お米
丸大産業(株)(中村区)／月刊グラン
三好丘緑フード・バンク支援センター(みよし市)／食品
野田暖(長久手市)／文具類
伊藤通康(長久手市)／たけのこ
鈴木伸明(日進市)／あじ
武藤良雄(一宮市)／甘夏
中日新聞社会事業団(中区)／キャラクターグッズ
豊田通商(株)(中村区)／ジブリパーク招待
山田丕史(長久手市)／菓子
服部純(新潟県)／お米
渡邊美香子(東京都)／絵画
高比良誠(長久手市)／ライフジャケット、菓子等
マックスバリュ長久手店(長久手市)／菓子
(株)ユーザン(長久手市)／りんごジュース、すいか
牧野研二・直美(日進市)／菓子
林亨(南区)／カルピス、三輪車
東海アイスクリーム協会(東区)／アイスクリーム
コカ・コーラボトラーズジャパンホールディングス(東京都)／飲料
(株)NTT西日本ルセント(瑞穂区)／飲料水
NPO法人トレジャーシップ(守山区)／タオル
(株)チュチュアンナ(大阪府)／靴下
(有)東海環境サービス(豊川市)／消毒スプレー

すまいるベリーズ長久手(長久手市)／いちご
山本(長久手市)／自転車
匿名／自転車
田中尚己(守山区)／扇風機
吉田幸政(長久手市)／タオル、キャラクターグッズ等
コストコホールセール守山倉庫(守山区)／パジャマ、フリース等
匿名／自転車
ながくて北川こどもクリニック(長久手市)／マスク
NPO法人ながいく(長久手市)／マスク、菓子等
匿名／カルピス
徳田優太(長久手市)／ボーリングチケット
親切会中部支部(中区)／洗剤
コカ・コーラボトラーズジャパンビジネスサービス(株)(福岡県)／飲料
加藤徳太郎(瀬戸市)／絵本、タオル等
匿名／商品券
内山利春(豊田市)／すいか
(株)東京足袋本舗(南区)／マスク
松原奈月(北区)／洗濯機、冷蔵庫
(株)トヨタシステムズ(中村区)／消毒スプレー等
エグチスチール(株)(守山区)／菓子
知野進一郎(長久手市)／すいか、きな粉等
愛知県信用農業協同組合連合会(中区)／メロン
荒川諒太(豊田市)／三輪車